文化

経済への視点

飯田泰之

実効性ある米国のインフレ目標政策

日本銀行で講演するFRBのバーナンキ議長＝2010年5月、手塚耕一郎撮影

米国の連邦準備制度理事会（FRB）は1月25日の連邦公開市場委員会（FOMC）において、物価上昇率の目標値を食品とエネルギーを除く個人消費支出価格指数（PCE）2％増に設定し政策運営の基準とする、インフレ目標政策へと移行した。

FRB議長であるバーナンキ博士はかねてインフレ目標政策の主唱者の一人として知られており、議長就任以来、その必要性を訴えてきた。その意味で、就任6年を経て、自身の提唱する理論をとうとう現実の政策として実現する第一歩を踏み出したわけだ。

しかしながら、正確には今次の「2％目標」宣言は狭義のインフレ目標政策ではない。目標の設定はFRB自身の手によって行われ、目標未達時の対応についても明確なルールは設けられていない。

日本銀行も「中長期的な物価安定の理解」という数値を発表しており、1％程度の物価上昇率が望ましいとしている。主要国で数少ないインフレ目標政策未導入国になったことで高まる批判に対し、日本銀行は「すでに米国と同様の目標設定をしている」と反論することであろう。

しかし、その存在さえも知られていない「物価安定の理解」とは大きく異なり、FRBのインフレ目標宣言は同日中に米国の長期金利を低下させるなど、すでに市場、実体経済に大きな影響を与えはじめている。

この違いはどこから来るのだろう。ここに経済政策における期待・予想の役割、そしてそれを支える政策当局への信頼という現代のマクロ経済政策を考えるキーが集約されている。

物価は財・サービスの平均的値段であると同時に貨幣の価値の逆数である点に注目する必要がある。インフレとは1万ドルで買えるモノが減るということ―つまりはドル価値の低下である。デフレはその逆にドル価値の上昇と同義だ。現在、そして今後しばらくは潤沢に存在するモノの価値は低下する。したがって、今後もドルが十二分に供給されるならばドルの価値は低下することになる。

実効性のあるインフレ政策のためには、足下だけではなく、今後も金融緩和が継続されると予想される必要がある。

それに比べて日銀は……

バーナンキ議長は世界的なマクロ経済学者として、世界大恐慌や日本のデフレ不況における大規模で継続的な金融緩和の必要性を主張してきた。そして、リーマン・ショック後には資産買い入れによってFRBの資産規模を短期間で2・5倍にまで拡大している。

これに加えて、今次のインフレ目標発表と同時にゼロ金利政策の2014年終盤までの継続予想を発表し、さらなる金融緩和の可能性（いわゆるQE3）を示唆したことも忘れてはならない。

自身の年来の主張、過去の実績、それらに裏付けられた将来への約束……。ここから民間はかなりの確度をもって継続的な金融緩和を予想することができる。みなが潤沢なドル供給が続くことを予想するわけであるから、ドルの価値は下がり、経済をインフレ・ドル安方向へと誘導すると考えられる。

一方、形式としては今次の宣言に類似する日本銀行の「物価安定の理解」にこれらの機能は全く備わっていない。

日本銀行はかねて物価動向をコントロールすることはできないと主張してきた。それどころか、かつてはマネー（ベースマネー）の量さえもコントロールできないし、すべきではないと主張していたほどだ。

そして00年と06年には、それまでデフレ脱却までゼロ金利を継続すると言っておきながら、物価上昇率が事実上デフレ状態のままにもかかわらずゼロ金利を解除している。そして先進国中もっとも大幅な生産低下となったリーマン・ショックに対しても、日本銀行はその資産規模を1割ほど増大させたに過ぎない。

年来の主張、過去の行動からも日本銀行「お手盛り」の「物価安定の理解」には市場の予想を転換させる力は全くといってよいほど備わっていない。そのうえ、ことあるごとにゼロ金利は一刻も早い離脱が望まれる忌むべき政策であるとの発言を繰り返しているのだ。これで金融緩和を十分な景気回復まで継続すると予想する者はいるまい。

そのため、米国では一定の効果を見込むことができる中央銀行単独のインフレ目標政策は日本では効果をもたない。

では日本にできることはもうないのだろうか？　そんなことはない。単に米国と同じ方法では実効性がないというだけの話だ。過去の日本銀行の特性・行動が捨て去られ、生まれ変わったことが明確になるならば日本銀行は再び十分な信頼性を獲得できる。

そのために必要となるのが日本銀行法の改正である。政府がインフレ目標を表明し、日本銀行はその達成に全力を尽くす。さらに水準の達成とその未達成時のペナルティが明示されるなら、政策の継続性は十分に民間の信頼を得ることができるだろう。新しい日本銀行が20年に及ぶ停滞を打ち破る主役の座を得る日を心待ちにしたい。

（いいだ・やすゆき＝駒沢大准教授、経済政策）

もっと知る！

「円高」と聞くと、以前なら「ああ、海外旅行がしやすくなる」と思う人も少なくなかったろう。ところが今は円高でも、海外に行く以前の問題で、そもそも懐がどうにも寂しい。理由はいろいろあるだろうが、安達誠司著『円高の正体』（光文社新書、777円）は、要するに円高はデフレの別の形での表れに過ぎない、と分析する。

岩田規久男・学習院大教授の『ユーロ危機と超円高恐慌』（日経プレミア、893円）も、飯田さん同様、大規模な金融緩和とインフレ目標率設定を主張する。同じ通貨が流通する範囲を考える最適通貨論も、東アジア共同体論を唱える人などが参考にすべき点が多そうだ。そういえば、安達さんも岩田さんも、代表作が昭和恐慌の研究書だった。

『ベン・バーナンキ　世界経済の新皇帝』（田中秀臣著、講談社）はバーナンキFRB議長の主張が詳しく分かるが、残念ながら品切れである。

【鈴木英生】

円高＝デフレ？

＝毎週木曜日に掲載

新世紀 世界文学ナビ

スペイン語圏5　エンリケ・ビラ＝マタス

〈ナビゲーター〉寺尾　隆吉

＝ベネズエラ人作家エドノディオ・キンテロ氏提供

「何もしないですませたい」、『白鯨』で有名なハーマン・メルヴィルの傑作『代書人バートルビー』のテーゼを創作にあてはめたのが、エンリケ・ビラ＝マタス（1948年、スペイン生まれ）が2000年に発表した代表作『バートルビーと仲間たち』（08年、新潮社）だ。カフカを筆頭に、サリンジャー、ルルフォなど、作家でありながら書くことをやめた人々の事例を追いかけながら、主人公の奇妙な文学的冒険が始まる。初心者には多少敷居が高いかもしれないが、文学愛好家にはたまらない知的刺激を与えてくれる一冊だろう。

ビラ＝マタスはこれまで多くの小説を残しているが、邦訳された2作も含め、その多くは「文学から作られた文学」である。こう言うと、アルゼンチンの作家ホルヘ・ルイス・ボルヘスを想起する読者も多いかもしれないが、現実世界消失への恐怖に怯えて文学に絶対安全な避難場所を求めたボルヘスに対し、ビラ＝マタスには、そうした形而上学的恐怖が見られない代わりに、文学への安心感も欠如している。それどころか、10年の『ダブリン風』に見られるように、彼の作品を貫いているのは、文学そのものの消滅、いわゆる「グーテンベルグ時代」の終焉を前にした危機感である。

ボルヘスと共通するのは、西欧世界の周縁に立つことで得られるコスモポリタン的視野と深い教養だろう。ボルヘスが育ったブエノスアイレスとビラ＝マタスの育ったバルセロナは、どちらも周縁国の文化的港町。とはいえ、20世紀を通してスペインは、こと小説分野においてアルゼンチンの後塵を拝し続けてきた。フランコ時代から負の遺産を引き継いだスペイン作家は、長期にわたってテーマ的地方性と手法的後進性に囚われ続け、「ピレネーを越えられない作品」ばかりを生み出していた。だが、世紀が変わる頃から、ようやく自由な精神で周縁の利点を活かす作家が現れるようになった。特に、古今東西の文学に精通したビラ＝マタスは、多様な作家・作品を貪欲に吸収しながら、独特の知的小説世界を作り上げていく。

皮肉なことに、ピレネーを越えた途端に見え始めたのは、デジタル化の嵐であり、本というメディアが消滅する危機だった。文学の生き残る道を模索すべく、ビラ＝マタスは文学をもとに文学作品を作り上げることで、文学の面白さ、その存在意義を読者に訴える。『バートルビーと仲間たち』には、「文学の未来は？」そんな問いへのヒントが隠されているかもしれない。

（フェリス女学院大准教授）

文学から作られた文学

〈作家本人から〉

創作を捨てる衝動

10年前、「バートルビー症候群」（作家が書けなくなってしまうこと）に囚われて頭が真っ白になり、もう二度と小説は書けないかもしれないと思った私は、作家たちの沈黙――自分への文学的要求が厳しすぎて書けなくなった作家、優れた作品を1、2作書いただけで創作をやめてしまう作家、等々――というテーマで小説を書いてみることにしました。

出来上がったこの作品について、チリの作家ロベルト・ボラーニョは、実は（よく言われているように）書くことをやめた作家の話ではなく、ある時ある理由から突如自分の大好きなものを捨ててしまう人間の物語である、と指摘しました。

確かに、自分の大好きなものに背を向ける、そんな衝動が人間にはあるのかもしれません。

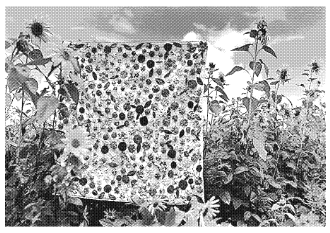
遊ナビ

〒100-8051（住所不要）
毎日新聞地方部遊ナビ係
ファクス　03・3212・0483
メール　u-navi@mainichi.co.jp

※掲載希望の方は1カ月前までに資料を送ってください。資料は返却しません。掲載可否の問い合わせはご遠慮ください。

テーマ展

■蜷川実花・蜷川宏子二人展～写真とパッチワーク・キルト、母と娘のコラボレーション　8～19日11～20時（会期中無休）、ラフォーレミュージアム原宿（地下鉄明治神宮前駅）。



艶やかな花の写真など、豪華絢爛な世界観を持つ写真家、蜷川実花さん。母宏子さんのキルト作品を見ると、ビビッドな色彩感覚が受け継がれたことが分かる。キルトが花や風景など自然と調和し、写真作品となることでさらに輝きを増す＝写真。600円。☎03・3475・0411

■石川真生展「港町エレジー」　17日まで12～20時（月曜休）、フォトグラフアーズ・ギャラリー（地下鉄新宿三丁目駅）。石川さんは1970年代から生まれ育った沖縄を主に撮影してきた。港町のヤーグヮー（小さな家）、別名「幽霊屋敷」に集う男たちを83～86年に撮影した作品群＝写真。港湾で働く人、失業者……。石川さんは「一見、コワモテのおじさんたちではあるが、私は彼らの中に実に自分に正直に生きている素直さを感じて、なぜか心ひかれる」と話す。無料。☎03・5368・2631

美術

■Tami　UYAMA展　6～11日11時半～19時（11日16時）、アートギャラリー銀座（地下鉄銀座一丁目駅）。日本や外国の現代美術展で数多く入選しているUYAMAさん。画廊の壁面に27×0・86㍍の大作を張り巡らせ、線の悠久性を表現する。題は「線の世界」＝写真。無料。☎03・3545・1139

■祈りと祝福の藍布～中国貴州ろうけつ染め展　22日まで10～17時（月曜休）、日中友好会館美術館（飯田橋駅）。ろうけつ染めは中国の無形文化遺産に登録されている民間の染め織物の技法。代表的なのは、ミャオ族、革家、プイ族などの少数民族が受け継いだもの。ろうのひび割れが偶然に生み出す独特の氷紋で美しさが出る。美意識や世界観を反映した多彩な図案や紋様が描かれた衣服や装飾品など約60点。無料。☎03・3815・5085

■フェアリー・テイル展　19日まで10～20時（月曜休）、三鷹市美術ギャラリー（JR三鷹駅）。妖精は、イギリスでは古くから伝承や民話に登場し、目撃談も多い身近な存在。「妖精学」という学問の分野もある。妖精学の第一人者、井村君江さんの旧コレクションを中心に、ビクトリア朝時代（1837～1901）の妖精にまつわるさまざまな作品を展示する。600円。☎0422・79・0033

■浅川伯教（のりたか）・巧（たくみ）　兄弟の心と眼～朝鮮時代の美　3月20日まで9時半～17時（月曜休）、栃木県立美術館（宇都宮駅からバス）。山梨県に生まれた浅川伯教（1884～1964）と弟巧（1891～1931）は、大正初期に朝鮮半島に渡った。やがて伯教は朝鮮陶磁研究の第一人者になり、巧も朝鮮の陶磁器および木工品について名著を残した。高麗青磁に比べて低く見られていた「李朝」の陶磁器に注目し、その美を日本に紹介した。2人は民芸運動家の柳宗悦（1889～1961）に影響を与えた。浅川兄弟と柳宗悦が選び抜いた陶磁器や木工品をはじめ約2000点。900円。☎028・621・3566

写真

■NPO法人ぱれっと＋寺沢太郎「あなたとわたし　わたしとあなた―知的障害者からのメッセージ」出版記念写真展　6日まで11～19時（6日15時）、ギャラリーポイント（JR恵比寿駅）。恵比寿で約30年間、知的障害者の就労、余暇、生活支援を続けるNPO法人ぱれっとの活動を記録した写真絵本（1470円、小学館）の発売を記念して。無料。☎03・5766・7302

ギャラリー

■ビエンナーレ日本ジュエリーデザイナー展～絆―想いをつなぐ　7～13日10時半～19時（13日17時）、和光本館6階和光ホール（地下鉄銀座駅）。主催は日本ジュウリーデザイナー協会。会員63人の新作がそろう。☎03・3523・7344

■Viewpoints～いま「描く」ということ　4～26日10～18時（会期中無休）、横浜市民ギャラリーあざみ野（東急田園都市線あざみ野駅）。「描く」ことをテーマに新進気鋭の若手アーティスト4人の新作を含む約80点。描く手を止めることなく、自由奔放な線が画面を埋め尽くす浅井裕介さんの「赤砂にノマレル」（2010年）＝写真＝ほか。学芸スタッフのギャラリートークが18日15時からある。☎045・910・5656

書道

■第25回墨州院東京展　6～12日、ギャラリー向日葵（地下鉄銀座駅）。菊池春苔主宰。

■第65回書道芸術院展　7～12日、東京セントラル美術館と東京銀座画廊美術館（地下鉄銀座一丁目駅）。辻元大雲理事長。

■第37回あきつ会書道展　8～20日、国立新美術館（地下鉄乃木坂駅）。米本一幸会長。

料金は当日の一般額です。

博物館ガイド

「休館」は各館の原則日で変更もあります。祝日の場合、※は翌日休、◎は開館。料金は一般の額。

館名	展覧会名	会期	休館 料金	電話／最寄駅
東京国立博物館	北京故宮博物院200選	～2／19	月※ 1500円	03・5777・8600 上野
国立科学博物館	バイオロギング 動物目線の行動学	～3／4	月※ 600円	03・5777・8600 上野
江戸東京博物館	NHK大河ドラマ50作特別展 平清盛	～2／5	1300円	03・3626・9974 両国
鉄道博物館	D51形式蒸気機関車 運転シミュレータの運転用車		火 500円	048・651・0088 鉄道博物館
世田谷文学館	都市から郊外へ 1930年代の東京	2／11～4／8	月※ 700円	03・5374・9111 芦花公園
古代オリエント博物館	発掘報告：エジプト、アコリス遺跡の調査	2／11～3／25	会期中無休 500円	03・3989・3491 池袋
印刷博物館	世界のブックデザイン 2010―11	～2／19	月※ 無料	03・5840・2300 江戸川橋
野球体育博物館	大ユニホーム展Part3 1990～2000年代	～4／15	月◎ 500円	03・3811・3600 水道橋
たばこと塩の博物館	紫煙と文士たち 林忠彦写真展	～3／18	月※ 100円	03・3476・2041 渋谷
切手の博物館	「開運ハッピー」展	～4／1	月 200円	03・5951・3331 目白
文化学園服飾博物館	ペイズリー文様 発生と展開	～3／14	日・祝 500円	03・3299・2387 新宿
日本科学未来館	ウメサオタダオ展 未来を探検する知の道具	～2／20	火 1000円	03・3570・9151 テレコムセンター
日本新聞博物館	2011年 報道写真展	～4／15	月※ 500円	045・661・2040 関内
富士市立博物館	富士山東泉院の秘宝 六所家総合調査成報②	～2／26	月※ 100円	0545・21・3380 富士
神奈川県立歴史博物館	弥生時代の かながわ	～2／12	月◎ 300円	045・201・0926 桜木町
埼玉県立歴史と民俗の博物館	大名と藩	3／20～5／6	月◎ 600円	048・645・8171 大宮公園
国立歴史民俗博物館	洛中洛外図屏風と風俗画	3／27～5／6	月※ 830円	03・5777・8600 京成佐倉
千葉県立中央博物館	房総発掘ものがたり	～2／26	月※ 300円	043・265・3111 千葉
茨城県自然博物館	鉱物、大好物！ きらめきに魅了されて	～2／19	月※ 520円	0297・38・2000 愛宕
栃木県立博物館	北関東の戦国時代 戦国の終焉	2／18～4／1	月※祝翌日 250円	028・634・1311 宇都宮
群馬県立歴史博物館	3月31日まで休館			027・346・5522 高崎

催しもの

【世界を知る旅の講演会・説明会開催】

◆①「多文化・多民族の国トルコ」◇日時／2月11日（土）・13時～16時◇会場／津田ホール（総武線・千駄ヶ谷駅前）②「風は東から西へ　シルクロードへいざ！」◇日時／2月18日（土）・13時～16時◇会場／発明会館ホール（地鉄・虎ノ門駅）各分

※定員／①300名②200名（無料ご招待）※応募／お電話又はHPより、ご応募下さい。http://www.eurasia.co.jp（受付時間18時～30分）☎03・3265・1440株式会社ユーラシア旅行社

ご相談

【弁護士相談】

◆弁護士◇債務整理◇過払い◇破産◇相続◇離婚◇慰謝料◇受付年中無休◇8～22時　電話相談無料　第一東京弁護士会所属　斎藤勝法律事務所　0120・969・689

結婚相談

◆先着百名様（入会金3万円無料）月会費五千円で入会OK　親の代理OK　まりも会　0120・6565・24

買います

【宝石】

◆宝石　即金買取　貴金属・毛皮等　JR御徒町駅北口3分　オフィスワキ　03（3839）5108

◆骨董　書画・中国物・茶道具・着物・刀剣・掛軸・版画・西洋美術・即金買入・訪問（有）昇香堂　03・5758・8687

◆今昔着物・帯　出張買入　文京区「こいしかわ」　03・3813・4009

◆陶磁器・硯・水滴・勲章・カメラ・楽器・着物・茶道具・掛軸・絵画・骨董（有）慈光　03・3399・1619

◆古い映画・音楽パンフ・玩具・鉄道模型・中国美術品・絵画・勲章・軍隊物　あすか　03・3711・6530

◆建替・引越・相続時の整理品・勲章・軍服・中国美術・工芸品・絵画・茶道具　飛鳥美術　03・3785・6866

◆買入絵画・骨董・掛軸・版画・西洋美術・茶道具（訪可）田園調布東洋館　03・3721・6200

売買

【古書・古美術】

◆中国書画・掛軸・日本画・洋画・買入・銀座宝古堂　陶磁器・朝陶器・茶道具・刀剣　0120・127・888

学校・講座情報

【中国占星術学校】

◆算命学　中国四千年の運命理論を初歩から奥義まで学べます。通信科あり。4月生募集！案内書無料送呈　朱学院　港区赤坂4―13―28（1階）　説明会2月15日・出席者性格鑑定無料　03（3586）8081

ちょっと役立つミニ情報
くらしの情報navi
広告のお問合せは　TEL.03（3212）3331